

キリスト教学Ⅱ

■科目のねらい

「建学の精神」を深く理解し、実践することができるために、人類が読み継いできた「聖書」を学ぶことによって、各々の持っている固有の使命に気づき、その実現を図る力を養う。

担当教員	西内みなみ
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	2年生
時間数	30
単位数	2

■授業の概要

キリスト教学Ⅰで学んだことを確認しながら、「聖書」を読み、信仰や祈り、聖歌について実践的・体験的に学ぶ。創設者聖マルグリット・ブルジョワについて学び、その生涯と祈りが、「建学の精神」であることを理解する。学びを通して「愛と奉仕に生きる」ことに主体的に取り組む態度を表していく。

■到達目標

- ① キリスト教についての知識・技能を修得する。
- ② キリスト教にある豊かな心と深い教養に根ざす思考力・判断力・表現力を身につける。
- ③ 「建学の精神」である「愛と奉仕に生きること」を実践的・体験的に学び、多様な人々と協働して主体的に取り組む態度を表す。

■各回の内容

1. 「建学の精神」の歴史的・宗教的背景
聖マルグリット・ブルジョワ生誕400周年記念講演
2. キリスト教とカトリック教会
カトリック松木町教会へのフィールドワーク
3. 愛すること① 生きる支えになる「愛された記憶」
マザー・テレサ「あなたの中の最良のものを」
4. 愛すること② 相手を大切にすること、愛する行為とは
良きサマリア人のたとえ話 1年次インサイトセッションの反転授業
5. 自分自身を愛するために セルフィイメージの大切さ
アントニー・デ・メロ「ひとりきりのとき人は愛することができる」
6. 「心の深呼吸」片柳弘史神父から学ぶ
インサイトセッション
7. 「いのちへのまなざし」から―自殺について
「わたしの死」はわたしのもの? 尊厳死と安楽死、神谷美恵子「生きがいについて」
8. キリストの誕生①
待降節とクリスマス・ソングのワークショップ
9. キリストの誕生②
待降節とテゼの祈り
10. キリストの誕生③
テゼの祈りの反転授業とあなたにとってのクリスマス
11. キリストの誕生④
胎児の人権を守る 人工妊娠中絶とカトリック教会
12. 平和と正義 ゆるすということ
他人をゆるすことは、自分をゆるすこと、ペシャワール会と中村哲医師
13. 東日本大震災から10年
10 Things to Learn from Japan、本島等『長崎市長の言葉』にみる戦争と信仰
14. キリスト教学Ⅱと「建学の精神」についてのまとめ①
知識理解度課題の実施と課題レポートの提出
15. キリスト教学Ⅱと「建学の精神」についてのまとめ②
知識理解度と課題レポートの確認

キリスト教学Ⅱ

■準備学習（予習・復習等）

『聖書』を通読しておく。参考文献を図書館で借りて読んでおく。毎週日曜日にカトリック松木町教会及び野田町教会、また修道院で行われるミサに自主的に参加してみる。授業で紹介される参考文献を読む。授業で紹介される様々なキリスト教関連のイベントに参加してみる。主体的、実践的、体験的にキリスト教の価値観や「建学の精神」について学ぶ。

※短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

■教育方法

基本的には講義を行う。講義の中で主体的・対話的な深い学びについて（アクティブラーニング）を実施する。歌唱や祈りのワークショップを行う。また、講義内容について話し合うグループワークを、随時行い、その結果についてプレゼンテーションをする。キリスト教や「建学の精神」についての学校行事で獲得した知識・技能・態度を反転授業で振り返る。さらに、教会、修道院、記念室等のフィールドワークを行い、キリスト教や「建学の精神」について、実践的・体験的に知識・技能・態度を身につける。

■評価方法

参加態度(リアクションペーパー)50%、課題レポート30%、知識理解課題20%

■教科書

『新共同訳聖書』日本聖書協会(1年次に用意したもの)

西内みなみ『愛された自分に会おう時 自分自身を愛するために』ドン・ボスコ社 2009年

■参考文献

日本カトリック司教団『いのちへのまなざし』【増補新版】2017年 カトリック中央協議会

講談社『ローマ法王の言葉』2019年

ドン・ボスコ社『カトリック生活』

国際平和論

■科目のねらい

「建学の精神」を深く理解し、実践することができるために、人類が読み継いできた「聖書」を学ぶことによって、各々の持っている固有の使命に気づき、その実現を図る力を養う。また、ボランティア活動などの体験を通して、知的・情緒的、倫理的に成長し、多様なものの見方や社会に対する認識ならびに責任感を養う。

「建学の精神」を深く理解し、実践することができる。

担当教員	元井貴子
授業形態	講義
学期	後期集中
必修・選択の別	選択
対象学生	1、2年
時間数	90分×15回
単位数	2

■授業の概要

集中講義と沖縄研修によって学びを深める科目である。集中授業では、戦争につき基礎知識を学び、その中からテーマを決めてグループ研究をする。講義の学びをふまえて、3泊4日の沖縄研修に参加し、沖縄戦跡や沖縄の文化に触れことで理解を深める。沖縄研修では研修団の一員として学生が主体的に行動・進出し自主的に学んでいく。

＊本科目では沖縄研修への参加が履修条件となる。

■到達目標

世界には紛争や対立によって、欠乏と貧困にあえぐ人々がいることを知り、世界平和について考えることができる。人類の戦争の歴史を振り返り、平和の尊さや命の大切さを理解し、平和のためにできることを考察することができる。また、沖縄の文化を体験することで、異文化への理解を深め、異文化間の協調及び相互理解による平和の実現についても考察することができる。

更に、グループ研究及び沖縄研修を通じて全員が積極的に協力し合い自己の役割と研修の目的を全うすることができる。

■各回の内容

1. 戦争とは何か（第2次世界大戦について）

2. テーマ別研究

3. テーマ別研究

4. テーマ別研究

5. テーマ別研究

6. 沖縄研修

7. 沖縄研修

8. 沖縄研修

9. 沖縄研修

10. 沖縄研修

11. 沖縄研修

12. 沖縄研修

13. 沖縄研修

14. 沖縄研修

15. 研修のまとめ

国際平和論

■準備学習（予習・復習等）

平和論、沖縄問題などに関する書籍を読む。
ニュース等の報道や時事問題にも積極的に触れ、関心を高めること。

※短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

■教育方法

事前学習において沖縄の戦跡に関するグループワークを実施し、その結果をプレゼンテーションをする。

■評価方法

グループ別研究に関する課題40%、事前講義及び研修中における貢献度20% 研修後のレポート40% による総合評価

■教科書

なし 資料を配布する

■参考文献

授業時に紹介する

哲学

■科目のねらい

学問を探究するために必要な幅広い知識と柔軟な思考を身につけ、現代社会における諸課題を正しく理解し、他の領域との関連を考慮しながら考察を深める力を養う科目である。（教養科目群）

担当教員	小原 拓磨
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	1・2年生合同
時間数	90分×15回
単位数	2

■授業の概要

哲学とは「疑問をもつこと」、「考えること」を基本とする学問である。そこでこの授業では、普段あたりまえのこととして見過ごされている身の回りの物事についてあらためて疑問に思い、問いを深めることから始めて、哲学の伝統的問題へと開かれることを目標とする。また、そのように物事を客観的に眺めて思考することを通じて自己反省を促し、自分の価値観が単なる私見や偏見である疑いをもたせ、ひいては他者の価値観を公正に扱えるようになることを目指す。

■到達目標

- ・西洋哲学の基礎的な知識や考え方を知ることができる。
- ・日常の物事について哲学的に考えることで、これまでとは違った観点で見られるようになり、柔軟な思考が身に着く。
- ・哲学的な問題設定および問題の考え方をもとに、現代社会の複雑な問題について本質的な観点で考察できるようになる。
- ・物事を本質的に眺める態度が養われ、自らの専門領域への洞察が深まる。
- ・変動し多様化する社会情勢のなかで、他者に流されることなく、自分に固執することもなく、自分の在り方を冷静に分析し、他者との適切な関係を保つ、真の意味での「生きる力」のヒントが得られる。

■各回の内容

1. オリエンテーション
2. 「子どもの問い」を考える
3. 友情と愛情
4. 「ジブリ作品」を哲学的に読み解く
5. ファッションの現象学
6. 消費社会——ひとは何を消費しているのか？
7. ショッピングとナルシズム
8. 仮面の本質——外見と内面の弁証法
9. 自己——就活・婚活の「自分らしさ」イデオロギー
10. 現実性と心身問題——映画『マトリックス』をもとに
11. 時間、死、無意識
12. 演習（１）カフカ『掟の門』についてグループ討論
13. 障害と優生思想（１）出生前診断と「命の選別」
14. 障害と優生思想（２）「相模原障害者施設殺傷事件」の思想
15. 演習（２）「死刑制度」についてグループ討論
16. 試験

哲学

■準備学習（予習・復習等）

予習：配布される資料をあらかじめ読み、そこで論じられる主題について自分なりにポイントをまとめ、また、分からない点を明確にしておく。
復習：授業で関心をもった主題について、紹介する参考文献を図書館等で入手し、各自でさらに考察する。

※短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

■教育方法

ほぼ毎回リアクションペーパーの提出を求め、次回、口頭またはプリントにて応答する。また、「演習」の回ではグループごとにテーマについて資料をもとに議論してもらうため、アクティブラーニングとなる。

■評価方法

学期末に行なう論述式試験（40％）、ほぼ毎回実施するリアクションペーパー（40％）の記述内容、グループワークでの積極性（20％）で評価。
試験の解説等は、試験の形式上各自で回答が異なるため、希望する者にかぎって個別で応じる。

■教科書

なし。毎回、資料を配布。

■参考文献

その都度授業で紹介する。

心理学

■科目のねらい

担当教員	後藤真
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学生
時間数	90分×15回
単位数	2

■授業の概要

人間観の変遷、ヒトの感覚と知覚、社会的行動、ライフサイクル、臨床心理学とこころの健康、性格と人格、ストレスコーピングスキル、等について概説する。また、少人数によるグループワークも積極的に取り入れていく。

■到達目標

心理学全般についての基礎的知識を身につける。また、心理学の知見に基づき、こころの複雑な働きに対する興味・関心を培うと共に、自らの日常生活に密接した諸問題を心理学的に捉えることができる。

■各回の内容

1. 導入
2. 社会の中の自己
3. 人間観の変遷と心理学の発展
4. 感覚・知覚の心理
5. 記憶のメカニズム：効果的な学習
6. 発達理論と発達段階
7. 自己概念と自尊感情
8. ライフサイクルにおける大学生期Ⅰ
9. ライフサイクルにおける大学生期Ⅱ
10. 行動心理：他者の存在とコミュニケーション
11. ストレス
12. 「癒し」と心理療法
13. ルーツとしての家族
14. ツールとしてのsystemic approach
15. 自己洞察と他者理解の心理

心理学

■準備学習（予習・復習等）

予習：各回授業で予習すべき内容（重要語句や心理学に関連する記事等）について指示する。

復習：授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、必要に応じてレポートの作成および提出を求める。

※短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

■教育方法

■評価方法

授業レビューシート40%、中間レポート30%、期末レポート30%

■教科書

授業時に紹介する

■参考文献

上田紀行『生きる意味』岩波新書（新赤版931）

心理学（C E）

■科目のねらい

学問を探究するために必要な幅広い知識と柔軟な思考を身につけ、現代社会における諸課題を正しく理解し、他の領域との関連を考慮しながら考察を深める力を養うための科目である。

担当教員	築田美抄
授業形態	単独
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	
時間数	
単位数	2

■授業の概要

本年度は、暫定的に遠隔授業を中心とする実施方法となるため、従来の心理学の学び方と切り口を替え、遠隔授業ならではの内容を計画し、「心」を理解する効果的な学習内容を計画する。

（参考：従来の方法）心理学は、人間を理解する基礎学問のひとつとして、「行動の科学」と位置付けられている。つまり、狭義の「心」のみが対象ではなく、人間の行動全体が、関心の対象となっている学問である。本講義では、心の3要素である「知・情・意」を理解した上で、そこから展開する人間の行動に関する専門分野をいくつか取り上げる。

■到達目標

- ①「心」に関する学問的知見を正しく理解し、「心」に対する専門的関心を高める。
- ②心理学の学びを通して、人間の行動に対する理解と気づきの視点を養い、人間を取り巻くさまざまな現象を考察できる力を身につける。

■各回の内容

1. 心理学を学ぶにあたって
～「ごきげんよう」と「リベラル・アーツ」～

2. 課題学習1：「不機嫌」

3. 課題学習2：「本当の自由」

4. 「心」とは
～「不機嫌」と「本当の自由」から理解する「心」のメカニズム～

5. 課題学習3：「感覚・知覚」の不思議に気付こう

6. 課題学習4：「学習」のプロセスに気付こう

7. 「知」は他者とともに育つもの
～グループ学習の不思議～

8. 「情」の多様性
～喜怒哀楽から「愛」に至るまで～

9. 「意」の七変化
～あなたの「欲しい」は本当か？～

10. 「心」と「脳」
～最新の研究知見～

11. 精神分析 第1講－1
「錯誤行為」総論

12. 精神分析 第2講－1
「夢分析」総論

13. 精神分析 第2講－2
ビデオ鑑賞「河合隼雄スペシャル」

14. 精神分析 第3講－1
「神経症」総論

15. 精神分析 第3講－2
ビデオ鑑賞「アルプスの少女ハイジ」

16. 試験

心理学（C E）

■準備学習（予習・復習等）

都度、次の講義に関して、下調べをしておく内容を指示する。

※短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

■教育方法

本年度は、暫定的に遠隔授業の形式となるが、具体的には、スライド配信と課題（百人一首の書き写し／心理学的視点の要点まとめなど）を予定。

（参考：従来の方法）基本的には講義形式の授業であるが、本科目は、日々の日常生活で体験していることに直結する内容であるため、テーマによっては、教員が提示したクエスチョンについての話し合いや、問題解決を試みるグループワークを取り入れる。また、担当教員自身の心理学の知見に基づいた対人支援の実務経験（精神科病院、刑務所、労働基準監督署など）により、精神障害、犯罪心理学、労働者のメンタルヘルスなどの今日的な話題を取り入れる。

■評価方法

課題80%、試験20%

■教科書

使用しない

■参考文献

都度、必要に応じて紹介する。

経済学

■科目のねらい

学問を探究するために必要な幅広い知識と柔軟な思考を身につけ、現代社会における諸課題を正しく理解し、他の領域との関連を考慮しながら考察を深める力を養うための科目である。（教養科目群）

担当教員	山野実
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	全1、2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

■授業の概要

経済学の基礎理論を習得し、経済にかかわる現代の諸問題や私たちが日常生活で行う経済行為を経済学的な観点から考察する。

■到達目標

- （1）経済学の基礎的な知識を理解し身につけることができる。
- （2）経済学的な思考法を身につけることができる。
- （3）現代社会における諸課題について、経済学的な観点から理解し考察することができる。

■各回の内容

1. 経済学の主要概念・考え方
－経済学を学ぶ上で基礎となる考え方を学ぶ
2. 需要と供給の理論（1）
－需要曲線と消費者行動
3. 需要と供給の理論（2）
－供給曲線と企業行動
4. 需要と供給の理論（3）
－市場取引と資源配分
5. 不完全市場（1）
－不完全競争
6. 不完全市場（2）
－情報の非対称性
7. 不完全市場（3）
－外部性、公共財
8. ゲームの理論
－戦略型ゲームと展開型ゲーム
9. マクロ経済の基礎
－GDPとその他の指標
10. マクロ経済政策（1）
－財政政策、日本の財政
11. マクロ経済政策（2）
－貨幣の役割、金融政策
12. 国際経済
－貿易の利益、為替
13. 日本経済の歩み
－戦後の経済復興期から今日までの歩み
14. 日本経済の現状と課題（1）
－少子高齢化、人口減少に起因する課題
15. 日本経済の現状と課題（2）
－所得格差、地域格差
16. 試験

経済学

■準備学習（予習・復習等）

各回の授業の最後に予習内容を示す。

授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、学んだことの理解度、定着度等の確認のため小テストを4回実施する。

※短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

■教育方法

講義形式を基本とするが、遠隔授業（オンデマンド型）を行うことがある。

■評価方法

試験60%、小テスト40%、いずれも採点後に返却する

■教科書

米本清ほか（2018）『経済学入門』みらい

■参考文献

スティグリッツ（2012）『入門経済学』（藪下史郎他訳）東洋経済新報社

マンキュー（2019）『入門経済学』（足立英之他訳）東洋経済新報社

法学

■科目のねらい

学問を探究するために必要な幅広い知識と柔軟な思考を身につけ、現代社会における諸課題を正しく理解し、他の領域との関連を考慮しながら考察を深める力を養う。
学問を探究するために必要な基礎的な知識を修得する

担当教員	元井 貴子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学生
時間数	90分×15回
単位数	2

■授業の概要

法律は日本のルールであるため、社会人になるにあたって基本的法知識の習得は必須のものと言える。しかし、法律は量が膨大であるため、本講義では、社会に出ていく女性として必ず習得してほしい法知識（法律用語及び制度）を厳選し、講義する。日常生活との関りが深い民事法を扱う（民法を中心にして借地借家法や会社法も学ぶ）。
また、講義を聴くだけでなく、イメージしやすい事例を使い、グループディスカッションで議論することを通じて法的な思考方法を学び、問題意識や他人の意見を理解しつつ自分の意見を構築するプロセスも体験する。

■到達目標

- ・社会に出て行く女性として知っておくべき法律知識（基本的な法律用語及び制度）を習得できる
- ・法律問題に直面したときに事実を正しく把握した上で、学んだ知識を使って妥当な結論を導き出す応用力を身につけることができる
- ・法律上の争点につき自分で考え、意見を構築することができる

■各回の内容

1. 国内の法律概要
2. 民法総則①：瑕疵ある意思表示及び意思の欠缺～言ったことを取り消したい時の法律～
3. 民法総則②：成年後見制度と失踪宣告制度～未成年者や高齢者を守る法律～
4. 契約法①：賃貸借契約と借地借家法～部屋を借りる時の法律～
5. 契約法②：消費貸借契約 / 物権法①：抵当権Ⅰ（抵当権とは何か）～家を買う時の法律～
6. 物権法②：抵当権Ⅱ（抵当権の実行・一括競売等）～競売される時の法律～
7. 契約法③：契約解除と損害賠償～相手が契約を守ってくれない時の法律～
8. 不法行為：損害賠償・過失相殺・使用者責任～事故にあった時の法律～
9. 保証法：保証契約～保証人になる時の法律～
10. 家族法①：婚姻～結婚・離婚する時の法律～
11. 家族法②：嫡出推定・養子～親子に関する法律～
12. 家族法③：相続Ⅰ法定相続～相続人は誰か～
13. 家族法④：相続Ⅱ遺言・遺留分～誰がどの位相続するのか～
14. 会社法①：株式・株主～株式会社とは～
15. 会社法②：会社の機関・取締役の義務～株式会社のしくみと社長の責任～
16. 試験

法学

■準備学習（予習・復習等）

- ・講義した範囲につきテキスト及びノートを読み直すこと
- ・重要である旨明示した用語及び争点につき自分の言葉で説明できるかを確認した上で、記憶すること

※短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

■教育方法

具体的な事案につきグループに分かれてディスカッションし、一つの結論を導き出す。その結果と理由をグループワーク報告書にまとめる。

■評価方法

筆記試験 40%、確認テスト 30%、講義への貢献度（グループディスカッション実施報告書） 15%、リアクションペーパー 15%

■教科書

なし

■参考文献

その都度、授業で紹介する

日本国憲法

■科目のねらい

学問を探究するために必要な幅広い知識と柔軟な思考を身につけ、現代社会における諸課題を正しく理解し、他の領域との関連を考慮しながら考察を深める力を養う。
学問を探究するために必要な基礎的な知識を修得する

担当教員	元井 貴子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	全1,2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

■授業の概要

憲法は私たちの国の基本となる法であると同時に、近年では、憲法改正等も議論されているため、深い理解が求められている。そこで、覚えてほしい基本的用語から、重要な条文や制度が、どのような意義や趣旨に基づくのか、という点に至るまで深く講義していく。また、憲法上の問題については具体的事案につき検討する機会を設け、自分なりの答えを導き出すワーク等も実施する。更に、講義内容を現実の問題としてイメージできるよう、関連する時事問題にもできるだけ触れていく。

■到達目標

- ・日本国憲法の基本原則及び各制度とその趣旨を理解できるようになる
- ・憲法上の争点につき、何が問題となっており、どのような議論があり、どのような意見があるのかを理解し、自分なりの考えを持つことができる
- ・法的思考力を養い、新しい問題に直面した時に問題の所在を把握し、論理的に考えて妥当な結論を導くことが出来るようになる

■各回の内容

1. 日本国憲法の基本原理
基本的人権①私人間効力

2. 基本的人権②享有主体性

3. 基本的人権③幸福追求権

4. 基本的人権④法の下の平等

5. 基本的人権⑤思想良心の自由・表現の自由

6. 基本的人権⑥経済的自由

7. 問題演習・質疑応答

8. 基本的人権⑦人身の自由・社会権

9. 統治機構①国民主権と選挙

10. 統治機構②国会

11. 統治機構③議院内閣制

12. 統治機構④内閣

13. 統治機構⑥裁判所

14. 統治機構⑦地方自治

15. 問題演習・質疑応答
期末レポート提出

日本国憲法

■準備学習（予習・復習等）

- ・講義した範囲につきテキスト・資料・ノートを読み直すこと
- ・重要である旨明示した用語及び争点につき自分の言葉で説明できるかを確認した上で、記憶すること

※短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

■教育方法

主に遠隔講義を実施する（3回程度の対面講義あり）。

■評価方法

リアクションペーパー 15%

期末レポート 25%

課題レポート 60%

■教科書

吉田仁美著『スタート憲法（第3版補訂版）』成文堂

■参考文献

その都度、授業で紹介する

教育原理

■科目のねらい

学問を探究するために必要な幅広い知識と柔軟な思考を身につけ、現代社会における諸課題を正しく理解し、他の領域との関連を考慮しながら考察を深める力を養うための科目である。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻・キャリア教養学科1年生
時間数	90分×15回
単位数	2

■授業の概要

教育の理念、思想、制度、歴史（西洋と日本）などの広い領域からr教育学の基礎的知識と現代社会における教育動向を学ぶ。またグローバル社会における視点から諸外国の教育動向なども学ぶ。それに基づいて、現代社会における教育をめぐる改革、諸問題について批判的に考察する。

■到達目標

- ・教育の理念・歴史・思想を学ぶことにより、学校、家庭、社会にかかわるさまざまな教育と人間形成の問題に取り組むうえで重視すべき原理を習得できる。
- ・教育における原理の習得を踏まえて、教育に関する高度で専門的な知識と有機的に関連づけ、深化できる準備ができる。
- ・自らの個人的な体験に基づく教育観や限定的な教育論を相対化し、教育的な原理を普遍化し、現代社会における教育問題を批判的に考察できる。

■各回の内容

1. 教育における理念と目的
2. 発達と教育
3. 「子どもの発見」から子ども観の変遷
4. 西洋における近代の教育史
5. ルソー「エミール」に見られる教育観
6. ペスタロッチ・フレーベルの教育思想
7. 我が国における近代教育思想
～学制を中心に～
8. 国家による教育と戦後教育改革
9. 学校制度と関連法令
～「学校」史と現代教育行政～
10. 学校運営と学級経営
11. グローバル社会における教育動向
～PISAが与えた影響～
12. 教員の過剰と主体性
～教育改革とアクティブラーニング～
13. 教育と階層格差
～教育の再生産機能について考える～
14. 学校開放と学校安全
～学校保健安全法とこれから～
15. 生きる力と生涯学習社会
～地域の中の学校とは～
16. 論述試験

教育原理

■準備学習（予習・復習等）

- ・新聞またはニュースで教育関連の記事を探し出し、それについてコメントを付けて持参すること。
- ・与えられた課題・テーマについて振り返りシートに記入すること。

※短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

■教育方法

- ・主としては伝統的講義型の授業である。しかし、内容によってグループワークやそれに基づくプレゼンテーションなどのアクティブラーニングを展開する。
- ・第12講の「教えの過剰と主体性」は、講師の塾経営の経験に基づいた授業を展開する。

■評価方法

教育関連のニュース（記事）の検索とそれに対するコメント（予習の態度）20%

- ・授業後の振り返りシートにおける記述（理解度と意見）30%
- ・論述試験50%

■教科書

なし

■参考文献

- ・汐見稔幸・伊藤毅・高田文子・東宏行・増田修治編 『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房、2011年。
- ・樋口聡、山内規嗣 『教育の思想と原理－良き教師を目指すために学ぶ重要なことがら－』協同出版、2012年。
- ・溝上慎一 『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂、2014年。
- ・松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター編 『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房、2015年
- ・その他、今日的な教育動向についてはその都度、新聞や資料を配布する。

教育心理学

■科目のねらい

学問を探究するために必要な幅広い知識と柔軟な思考を身につけ、現代社会における諸課題を正しく理解し、他の領域との関連を考慮しながら考察を深める力を養うための科目である。

担当教員	築田美抄
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	CE I、II DII教職
時間数	
単位数	2

■授業の概要

本年は、暫定的に遠隔授業を取り入れた方法で実施をするため、従来の講義形式で扱う内容と、大幅に切り口を変更する。具体的には「教育」と「心」を成り立たせている「言葉」を主に扱う。そのため「言葉」の発達過程を体験する内容を工夫した演習課題を取り入れる。

（参考：従来の方法）「教育」とは「教え、育む」という意味にほかならないが、その働きかけの対象となるのは、主として人間の「心」である。なぜなら「心」というものは「知的能力」「感情、情動」「意志、欲求」の3つの要素から成り立っており、「心」の働きは「人間そのもの」と言えるからである。そして、人は常に「教え」「育まれる」という経験を重ねることにより、日々の営みを成り立たせているともいえる。そのため本講義は「人間を考える科目」とも言えるだろう。

■到達目標

- ①教育心理学で扱われている学術的知見を学ぶことによって、専門知識を身につけると同時に、実際の、具体的に「人間」や「教育」について、自身の考えを深め、実践することができる力をつける。
- ②発達や成長は、多角的に捉えられるものであることを知り、人間理解の視野を広げる。
- ③人間の「個性」について、幅広く受け止めることができる価値観を養う。

■各回の内容

1. ガイダンス～教育心理学の研究方法与基礎理論

2. 「教育」と「心」を成り立たせる「言葉」

3. 胎児期～乳幼児期の発達①

4. 胎児期～乳幼児期の発達②

5. 幼児期の発達①

6. 幼児期の発達②

7. 幼児期の発達③

8. 児童期の発達①

9. 児童期の発達②

10. トピックス「私が小学生のとき」

11. 思春期～青年期①

12. 思春期～青年期②

13. 思春期～青年期③

14. トピックス「生涯発達」

15. トピックス「生涯現役」

16. 試験

教育心理学

■準備学習（予習・復習等）

予習は特に必要としないが、授業毎に、当日の講義テーマに関して、復習する内容を指示する。

※短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

■教育方法

本年度は、暫定的に遠隔授業を取り入れることから、特に「言葉」を切り口として、「教育」と「心」についての学習を進める。
（参考：従来の方法）自身の生活経験から「心の発達」を理解することができるように、過去の経験を振り返る個別ワークや、経験や意見をシェアするためのグループワークを多用する。また、特に乳幼児期について学ぶ際は、その実際の姿や様子を知るためにビデオ教材も用いる。

■評価方法

試験 50%

毎授業時における振り返りシート 50%

■教科書

使用しない

■参考文献

- ・小野寺敦子「手にとるように発達心理学がわかる本」かんき出版
- ・バーバラM.ニューマン他「新版 生涯発達心理学－エリクソンによる人間の一生とその可能性」川島書店

英語VI

■科目のねらい

1年次に引き続き、編入学希望者を対象とした読解力と記述力養成を目的とする。継続的な語彙学習と構文に注目した読解演習を行うことで外国語を効果的に学習する習慣と自律調整学習の力をつける。また、外国語習得に必要な知識とその知識を活用する能力の習得を目指す。

担当教員	高橋未希
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学部2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

■授業の概要

文の構造や論理展開をとらえながら読むことを中心に編入試験に対応できる読解力をつけていく。また、英文和訳の演習に取り組むことで、総合的な読解力や記述力を養成する。

■到達目標

- ①読解力：精読活動を通して、文法的な知識を活用しながら正確に読解できる練習をしていく。
- ②語彙力：語彙力を広げ、辞書を使わずに最後まで読み切ることができるように強化する。
- ③記述力：過去問演習や英文和訳を通して、読み手を意識した論理的で自然な表現力と記述力を身に付ける

■各回の内容

1. オリエンテーション/1年次の復習

2. andの接続について（基礎編）

3. andの接続について（応用編）

4. 名詞構文（基礎編）

5. 名詞構文（応用編）

6. 挿入（基礎編）

7. 挿入（応用編）

8. まとめテスト

9. 省略（基礎編）

10. 省略（応用編）

11. asの識別（基礎編）

12. asの識別（応用編）

13. 強調構文（基礎編）

14. 強調構文（応用編）

15. 総合問題演習

16. 試験

英語VI

■準備学習（予習・復習等）

予習) 指定された英文や課題に目を通し、不明な箇所を予習の段階で明確にしておく。
文法や語彙などは積極的に調べ、弱点の補強に努めること。

復習) 授業時間で扱った重要項目について、まとめ直しをした後、類題に積極的に取り組むこと
小テストで間違ったところを再度重点的に見直しをすること
自ら設定した課題について継続的に取り組み、語学力の伸長を主体的に行うこと

※短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

■教育方法

グループでの討議やペアワークを導入し、対話的な学習機会と主体的な問題解決の機会を設ける。
新型コロナウイルスが収束するまでは双方型の遠隔授業を行う

■評価方法

小テスト：30%
まとめテスト：60%(2回)
授業への参加態度：10%

■教科書

必要に応じて適宜配布をする

■参考文献

必要に応じて適宜提示をする

英語Ⅶ

■科目のねらい

編入学希望者を対象に、外国語の理解に必要な知識や技能の習得を目指す。継続的な単語学習や問題演習の機会を設けることで、効果的な言語学習を日常生活で行動に移しながら、自ら外国語を効果的に学修する力を身につける。また、文章の意図を理解しながら、状況に応じた表現を行うことができる記述力を養成する。

担当教員	高橋未希
授業形態	授業・講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学科2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

■授業の概要

編入学試験に向けて、演習と講義を行っていく。

英文は、書かれている内容を読者によりわかりやすく伝えるため、いくつかの論理構造を用いていることが多い。その特有の論理構造と、文章の流れを学習することにより、より効率的に要点を押さえながら、本文の意図を的確に読み取っていく能力の涵養に努めていく。

■到達目標

- ①読解力：メタ的視点から英文の構造を分析し、その展開パターンを用いて文章を読み取ることができるようになる。
- ②語彙力：編入学試験に必要であると思われる、様々な分野の用語・単語の習得に努める。
- ③記述力：問題作成者の意図を理解しながら、適切な表現ができる力を養っていく。

■各回の内容

1. オリエンテーション/ 英語の論理展開について

2. パラグラフリーディング演習
- 抽象→対比-

3. パラグラフリーディング演習
- 抽象→理由説明-

4. パラグラフリーディング演習
- 抽象→例示-

5. パラグラフリーディング演習
- 一般論からの逆接展開-

6. パラグラフリーディング演習
- 対比と逆接の違いについて-

7. パラグラフリーディング演習
- 現代批評形式を読み解く-

8. まとめテスト

9. パラグラフリーディング演習
- 譲歩からの主題展開-

10. パラグラフリーディング演習
- 要約問題（1）-

11. パラグラフリーディング演習
- 要約問題（2）-

12. パラグラフリーディング演習
- 内容説明問題（1）-

13. パラグラフリーディング演習
- 内容説明問題（2）-

14. パラグラフリーディング演習
- 段落主題把握問題（1）-

15. パラグラフリーディング演習
- 段落主題把握問題（1）-

16. 試験

英語Ⅶ

■準備学習（予習・復習等）

予習) 提示された課題文を読み、意味がわからない点・読解に苦勞する点を見つけ出しておくこと
小テストに向けて対策を行うこと
＊ 反転学習を前提としている

復習) 自主課題に積極的に取り組むこと
授業で扱った重要事項の振り替えりおよび、小テストで間違った箇所の復習

※短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

■教育方法

グループでの討議やペアワークを導入し、対話的な学習機会と主体的な問題解決の機会を設ける。
遠隔授業用のソフトウェアを使用し、新型コロナウイルス感染が落ち着くまでは遠隔授業を行う。
8回目、15回目は登校日とする。

具体的な授業の進め方については、初回の授業で詳しく説明を行う。

■評価方法

小テスト (30%)
まとめテスト (60%)
授業態度 (10%)

■教科書

適宜プリントを配布していく

■参考文献

授業でその都度提示していく

韓国語Ⅰ

■科目のねらい

本科目は、外国語の基礎的な知識を修得し、異文化コミュニケーションに必要な表現力と行動力を養うための共通科目である。
(外国語科目群)

担当教員	梁 姫淑
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全1, 2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

■授業の概要

韓国語は語彙と語順が日本語と似ているため、日本語を話す人にとってもっとも学びやすい外国語である。

授業では、初級レベルの文法や文型を身につけ、それらを用いて簡単な会話や作文ができるようになることを目指す。質問の仕方や答え方を身につけたり、自己紹介や買い物、食事などの場面で使える簡単な表現を学び、受講生が韓国語及び韓国文化に親しみを覚えるように手助けをする。

■到達目標

ハングルの文字を正しく書き、正確に発音できる。

②挨拶や自己紹介などの基礎的な会話ができる。

③新出語彙を使って短い文を作ることができる。

④韓国語学習を通じて韓国の文化に触れる。

④キーボードでハングルを打つことができる。

■各回の内容

1. オリエンテーション（ハングルの基本構造について）

2. 母音

3. 複合母音

4. 子音

5. バッチム

6. <自己紹介>～는/은（は）～입니다/입니까（です/ですか）

7. <否定文>이/가(～が) 아니다（ではない）

8. <用言文>用言+습니다/ㅂ니다(です、ます)、助詞の使い方

9. 動詞、用言+아요/어요

10. 指示詞、漢数詞

11. 時期や時刻の表現

12. 動詞や形容詞の否定文

13. 動詞+아/어 주세요(～てください)

14. ハングルキーボードの打ち方

15. まとめ

16. 試験

韓国語Ⅰ

■準備学習（予習・復習等）

毎回の授業内容をきちんと復習する。

※短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

■教育方法

韓国文化に親しみを有てるように、簡単な会話など、日常的な場面を実践的に学ぶ。
授業では、語彙を中心にした文字学習、CDを活用した発音習得、ワークシートを利用した書き方の練習も会話の練習と共に行う。

■評価方法

出席・授業態度：30%、ミニテストと提出物：10%、期末テストの成績：60%

■教科書

崔柄珠著『おはよう韓国語 1』朝日出版社

■参考文献

授業内で指示する

中国語Ⅰ

■科目のねらい

本科目は、外国語の基礎的な知識を修得し、異文化コミュニケーションに必要な表現と行動力を養うための共通科目である。
(外国語科目群)

担当教員	叶 根青
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学生
時間数	90分×15回
単位数	2

■授業の概要

発音、文法、姓名の表現、判断、程度、行為、時間、所有、存在、経験などの表現。会話、ドリル、小テスト、生活習慣、食文化、考え方の違い。

■到達目標

- (1) 楽しみながら、豊かな中国語の表現を身につけ、中国語でコミュニケーションする喜びを感じることができる。
(2) 中国語を話す人々の歴史、文化、生活を知り、さらに新しい自己を発見し、人生の目標や友人と会う事と国際交流、理解、平和に役に立つことを願うことができる。

■各回の内容

1. 簡単なあいさつ、簡体字、声調（第1,2課）※毎回練習問題あり
2. 発音編（子音、母音）会話を練習（第3,4,5課）
3. 疑問文、反復疑問文、動詞、形容詞（第5,6,7課）
4. 名前を尋ねる、自己紹介、代名詞、疑問詞（第8,9課）
5. 会話文、副詞、量詞、動詞（第10,11課）
6. 家族の構成、疑問詞“几”、カレンダーの、、、（第12,13課）
7. 月、日、曜日、時間の言い方（第14,15課）
8. 小テスト
9. 疑問詞“怎么”“怎么”、文末の“了”①、年齢を尋ねる、ちょっと・・・する（第16,17課）
10. 疑問詞“多少”、値段の言い方、数の数え方（第18課）
11. 介詞“給”、語気助詞“吧”、文末の“了”②、目的語を2つとれる動詞（第19課）
12. 介詞“在”、“比”、語気助詞“的”（第20課）
13. 介詞“离”、“从”、時間の量の表し方（第21課）
14. “会”“能”、“可以”の助動詞（第22課）
15. まとめ
16. テスト

中国語Ⅰ

■準備学習（予習・復習等）

授業内容の宿題プリントを出し、次の授業に提出する。

※短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

■教育方法

日常会話を基に、簡単な文法など学び、中国の文化についても学ぶ。

■評価方法

テスト90%、授業態度5%、宿題提出率5%

■教科書

小川郁夫 著『初級中国語 教科書+ドリル』白帝社

■参考文献

なし

キャリアデザインⅢ

■科目のねらい

ビジネス社会での基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルを身につけ、卒業後の進路（就職、編入等）を含めたライフキャリアをデザインできるようになるための科目である。

担当教員	坂本・山野・三瓶・奥田・高橋・市川
授業形態	講義・演習・実習・ゼミ・個別指導
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

■授業の概要

進路（四年制大学編入・就職）を考えるうえで、2年前期は極めて重要な時期である。いずれの進路を選択するにしても、基礎学力を高めることは特に必要である。編入・公務員・一般企業などの進路を見据え、各コースを選択し、自ら主体的に学ぶ。この授業は、キャリアデザインⅣに連携する。

■到達目標

ビジネス社会での基本となる日本語能力を身につけることができる。
卒業後の進路を含めたライフキャリアをデザインできる力を身につけることができる。

■各回の内容

1. オリエンテーション

2. 編入・公務員・一般企業等学力養成1

3. 編入・公務員・一般企業等学力養成2

4. 編入・公務員・一般企業等学力養成3

5. 編入・公務員・一般企業等学力養成4

6. 編入・公務員・一般企業等学力養成5

7. 編入・公務員・一般企業等学力養成6

8. 編入・公務員・一般企業等学力養成7

9. 編入・公務員・一般企業等学力養成8

10. 編入・公務員・一般企業等学力養成9

11. 編入・公務員・一般企業等学力養成10

12. 編入・公務員・一般企業等学力養成11

13. 編入・公務員・一般企業等学力養成12

14. 編入・公務員・一般企業等学力養成13

15. 編入・公務員・一般企業等学力養成14

キャリアデザインIII

■準備学習（予習・復習等）

1年前期・後期の学習を振り返り、自己の強み・弱みを把握し、改善点を明らかにしておく。
コースごとに指示された事前・事後学習を行う。

※短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

■教育方法

進路選択に合わせたグループを構成し、担当教員を配置して指導する。
各グループの指導内容に合わせて、実務家等のゲストを招聘する。
各グループ毎の各回の内容については、初回に提示する。
面接授業を基本とするが、一部遠隔授業を行うこともある。

■評価方法

毎回の振り返り（5点×15回）を100点換算し評価する。

■教科書

必要に応じて資料を配布する。選択したコースによっては、テキスト購入を指示する場合がある。

■参考文献

必要に応じて紹介する。

キャリアデザインⅣ

■科目のねらい

ビジネス社会での基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルを身につけ、卒業後の進路（就職、編入等）を含めたライフキャリアをデザインできるようになる。

担当教員	山下・三瓶・後藤・藤平・加藤・市川
授業形態	講義・演習・実習・斎藤（瑛）
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	全2年生
時間数	90×15回
単位数	2

■授業の概要

2年後期は、進路の決定時期である。各自の学びの度合いに応じて主体的学習を進める。また、資格試験の受験を目指すこともよい。

■到達目標

2年前期を振り返り、学習の強み・弱みを把握し、卒業後の進路を見据えた学習を継続できる。

■各回の内容

- オリエンテーション
- ビジネス社会での基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルの確認と学習（1）
- ビジネス社会での基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルの確認と学習（2）
- ビジネス社会での基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルの確認と学習（3）
- ビジネス社会での基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルの確認と学習（4）
- ビジネス社会での基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルの確認と学習（5）
- ビジネス社会での基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルの確認と学習（6）
- ビジネス社会での基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルの確認と学習（7）
- ビジネス社会での基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルの確認と学習（8）
- ビジネス社会での基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルの確認と学習（9）
- ビジネス社会での基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルの確認と学習（10）
- ビジネス社会での基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルの確認と学習（11）
- ビジネス社会での基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルの確認と学習（12）
- ビジネス社会での基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルの確認と学習（13）
- ビジネス社会での基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルの確認と学習のまとめ

キャリアデザインⅣ

■準備学習（予習・復習等）

2年前期の学習を振り返り、自己の強み・弱みを把握し、改善点を明らかにする。
選択したコースで指示された事前・事後学習を行う。

※短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

■教育方法

- ・各学科専攻ごと、進路選択に合わせたグループを構成し、担当教員を配置して指導する。
- ・各グループ毎の各回の内容については、初回に提示する

■評価方法

毎回の参加態度、講義・演習の進捗状況等、学習成果を各回5点×15回を100点換算し、その結果を踏まえて、総合的に判断し評価する

■教科書

必要に応じて資料を配布する。選択したコースによっては、テキスト購入を指示する場合がある。

■参考文献

必要に応じて紹介する

情報演習III

■科目のねらい

本科目は、情報演習ⅠとⅡの継続学習として、「キャリア開発科目群」の目的である「ビジネス社会での基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルを身につけ、卒業後の進路（就職、編入等）を含めたライフキャリアをデザインできるようになる」ことに関し、特に「ビジネス社会での基本となる情報の活用法などのスキルを身につける」ことをねらいとする。

担当教員	菅野 浩子
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

■授業の概要

実社会でのICTリーダ補佐ができるスキル獲得（P検定3級以上合格）を目指す。

★高校等で、P検定3級以上取得者は単位認定できるので、合格証を担当教員へ提出すること。（コピーを提出）なお単位認定する場合は、履修登録が必要である。

★さらに上のレベルを目指す学生は、担当教員へ相談する(授業内自習や支援有)。

■到達目標

ICTツールを高度に利活用でき、他者に指導できるICTリーダ補佐を目指し、企業内職務を遂行する上での応用的な知識、スキルを有することができる。

■各回の内容

1. 企業が求めるICT人材像と目標設定

2. コンピュータ知識講義と演習

3. コンピュータ知識(利用面)講義と演習

4. ネットワーク(LAN)講義と演習

5. ネットワーク(インターネット)講義と演習

6. 情報モラルと情報セキュリティ講義と演習

7. 知識領域のまとめ

8. 文書作成技能 演習1

9. 文書作成技能 演習2

10. 表計算技能 演習1

11. 表計算技能 演習2

12. 総合演習1

13. 総合演習2

14. 総合演習3

15. まとめ

16. 試験

情報演習III

■準備学習（予習・復習等）

予備学習：情報演習ⅠとⅡで、苦手な部分を整理してくること。

事前学習：該当部分のテキスト精読と事前演習

事後学習：学習部分の復習と課題の作成

※短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

■教育方法

本科目は、全ての回で講義・演習を行い、都度課題を保存していきながら、単元ごとの目標を達成する科目である。学生個々の進度が異なるので、学生の疑問を解消しながら演習を行う。担当教員は、情報教育に長年携わっており、双方向授業を実践している。学ぶ内容が多岐に渡るので、各回の目標を明確にしながら授業を行う。

■評価方法

毎回の振り返り20%、演習40%、総合演習40%

■教科書

- ・『P検3級 公認テキスト（ICTプロフィシエンシー検定試験）』FOM出版
- ・本学作成資料

■参考文献

情報演習Ⅰで使用したテキスト
他は、その都度授業で紹介する。

体育講義

■科目のねらい

本科目は、身体の機能、体力の概念を理解した上で、体育の意義を理解する科目である。その上で、心身の健康と運動について理解を深めながら「自分」を客観視し、自己の存在に気づき、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を養うことができるようになるための科目である。（健康科学科目群）

担当教員	堺 秋彦
授業形態	講義
学期	前期集中
必修・選択の別	選択
対象学生	全1、2年
時間数	90分×7.5回（集中）
単位数	1

■授業の概要

体育、運動生理学について講義をし、その後講義の内容に基づきクイズ形式で授業を進める。体育の「歴史、概念、意義、ねらい」や「人間の発達段階」、「体力の概念」を知り、運動と健康について考える。運動が心身の健康のためにどれだけ大切なのかを理解したうえで、自分自身の健康をはじめ将来母親になったときに、わが子の健康をも考えることができるようにする。また、最後にクイズで出した問題の中からテストする。授業は2日に分けた集中でおこなう。

■到達目標

- （１）体育の歴史を通して、今日ある体育の意義を知り、何を目指した教科なのかを理解することができる。
- （２）人間の身体の構造や機能、体力の概念を理解し、運動が心身に与える効果を知り実践することができる。

■各回の内容

1. 体育の歴史と定義
2. 体育の意義と内容
3. 現代における体育の課題
4. 人間の発達（スキヤモンの発育型）
5. 身体の構造と機能
6. 運動の効果（①健康の定義 ②運動と健康 ③体力の概念 ④生涯スポーツについて）
7. テスト
8. まとめ

体育講義

■準備学習（予習・復習等）

- ・規則正しい生活習慣を心掛け、自分の身体を意識する。
- ・復習として、配布した参考資料並びに「身体」「発育発達」「運動」に関する内容を、本を読んだり、インターネットで調べ、「身体の特徴」と「運動」の関係性について理解を深める。

※短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

■教育方法

- ・スライドとレジュメに基づき講義する。
- ・グループで、課題（クイズ形式）を行い、対話的に考える場面を設定する。

■評価方法

課題（クイズ）20%
テスト80%

■教科書

なし。授業で資料を配布する。

■参考文献

幼稚園教育要領、小学校教育指導要領、中学校教育指導要領（保健体育編）、高等学校教育指導要領（保健体育編）

地域食生活論

■科目のねらい

本科目は、主に栄養士として求められる専門知識と技術を習得するための科目である。また、社会のニーズに対応できる専門知識とプレゼンテーション能力の習得、および「いのち」を守るために、他者と協働して課題の発見・解決に取り組むことも含む。

担当教員	齋藤 瑛介
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻 2年
時間数	90分 × 15回
単位数	2

■授業の概要

食習慣は居住する地域環境、社会環境に大きく影響を受ける。近年、日本国民の食は外部化が進み、中でも中食市場は現在も拡大傾向にある。本講義は、福島県（市）を学び、中食の製造・販売に関するマネジメント法を学び、福島市民の健康増進が期待される中食製品の開発に望む。

■到達目標

現在の日本および福島県における健康・栄養・生活に関する課題について学ぶ（DP1）。地域の都市環境や社会環境と食習慣と習慣的な栄養素摂取量との関係性について学ぶ（DP1）。スーパーマーケットにおける中食の製造・販売に関するマネジメントの概要を学ぶ（DP2-1）。福島市民の健康増進が期待される中食製品の開発に、グループワークをとおして携わる（DP2-2, DP3）。

■各回の内容

1. 地域の都市環境や社会環境と健康・栄養関連因子との関係性
2. 福島県（市）における健康栄養問題、都市環境、社会環境の調査
3. 福島県（市）における健康栄養問題、都市環境、社会環境のまとめ
4. 福島県における健康づくり推進活動の取り組み
5. 福島市で利用可能な外食メニュー・中食製品の調査
6. 福島市で利用可能な外食メニュー・中食製品のまとめ
7. スーパーマーケットにおける中食の製造・販売に関するマネジメント
8. 福島市民の健康増進が期待される中食製品の考案（1）
9. 福島市民の健康増進が期待される中食製品の考案（2）
10. 考案した中食製品の試作（1）
11. 考案した中食製品の試作（2）
12. 福島市民の健康増進が期待される中食製品の考案（3）
13. 考案した中食製品の試作（3）
14. 考案した中食製品の試作（4）
15. 考案した中食製品のプレゼンテーション

地域食生活論

■準備学習（予習・復習等）

予習：福島県について勉強する（外食と中食の利用状況や都市環境）。福島市で入手可能な中食製品について調査する。下記参考文献の調査結果に目を通しておく。

※短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

■教育方法

- ・地域（福島市）の調査結果を各自発表後、グループディスカッションを行う。
- ・地域の健康増進が期待される中食製品の考案の際は、グループワーク、調理実習およびプレゼンテーションを行う。
- ・授業は部分的に遠隔授業にて行う。

■評価方法

課題：2回、各20点（2回と5回に実施）

発表：60点（A：60点、B：50点、C：40点）

■教科書

なし

■参考文献

福島県の「こころの健康度・生活習慣に関する調査」平成29年度結果報告（放射線医学県民健康管理センターのホームページでPDFファイルを入手可能）

「国民健康・栄養調査結果」（厚生労働省のホームページでPDFファイルを入手可能）

栄養士実力養成講座

■科目のねらい

担当教員	津田・土屋・畑・市川・齋藤
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻2年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

■授業の概要

社会生活と健康、人体の構造と機能、食品と衛生、栄養と健康、栄養の指導、給食の運営等の専門分野における重要事項を各科目担当教員により総括し、専門知識に対する理解を深める。具体的には、栄養士実力認定試験の過去問題を活用し、理解力の向上を図る。

■到達目標

栄養士として必要な専門科目の内容を総括し、専門知識への理解を深めて、栄養士実力認定試験および卒業後の栄養士業務への資質向上に役立つ。

■各回の内容

1. 基礎栄養学分野（1，2回合同）

2. 応用栄養学分野 小テスト1回目

3. 生化学総論（3，4回合同）

4. 生化学各論 小テスト2回目

5. 食品学分野（5，6回合同）

6. 食品加工学分野 小テスト3回目

7. 解剖・生理学総論（7，8回合同）

8. 解剖・生理学各論 小テスト4回目

9. 臨床栄養学総論（9，10回合同）

10. 臨床栄養学各論 小テスト5回目

11. 栄養指導論（11，12回合同）

12. 公衆栄養学 小テスト6回目

13. 調理学分野（13，14回合同）

14. 給食管理分野 小テスト7回目

15. 模擬試験1回目

16. 模擬試験2回目

栄養士実力養成講座

■準備学習（予習・復習等）

予習として、授業で指示された範囲の教科書・プリント・過去問題に取り組み、わからない点を調べておく。
復習として、授業で学んだ内容をまとめ、過去問題や練習問題を繰り返し解く。

※短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

■教育方法

■評価方法

毎回の小試験80%と模擬試験20%で、総合的に評価する。

■教科書

（栄養士実力試験対策用の要点集を後期の教科書販売時に指定する）

■参考文献

該当する授業科目の教科書を利用する。